

## ■第2回「被災地の子どもたちとの交流会」開催

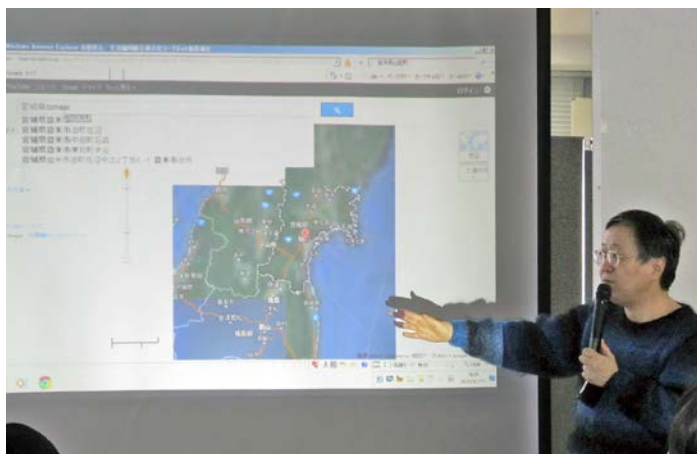
### ●子どもたちの語る場をつくる

東日本大震災の被災地の中高生と東京の中高生を交えた「被災地の子どもたちとの交流会」（第2回）が2014年1月11日、コープみらいプラザ新中野で開催されました。

コープみらいでは、被災した中高生のための自習室「山田町ゾンタハウス」※1（岩手県山田町）に軽食やガスエアコンを提供するなど、支援活動を継続しており、交流会もこの支援の一環です。

2回目となる今回は、岩手県山田町と宮城県登米市、同南三陸町、福島県いわき市からの中高生16人、都内の中高生6人のほか東洋大学の学生なども多数参加し、理事やスタッフを含めて56人の参加となりました。

ゾンタハウスを開設した、「NPO法人 子ども福祉研究所」代表である、東洋大学社会学部教授の森田明美さんは、「この交流会は『私たちの意見を伝えたい』という被災地の子どもたちの声から生まれました。子どもたちの希望を実現して下さったコープみらいに心から感謝しています」とあいさつ、「震災の体験を自分の言葉で語るのはとても大切です。これからも、子どもたちに語る場をつくっていきたいと思っています。これは大人の責任でもあります」と話します。



東洋大学の森田教授による「被災地の様子」のレクチャー風景。

### ●「みんなが悩んでいるのが分かった」

会場では、グループに分かれて、仮設住宅でのくらしぶりや趣味、将来の夢などを語り合いました。

最初は自己紹介を兼ねて「今、ハマっていること」「東京の興味がある場所」などをテーマにおしゃべりしていましたが、次第に進路や趣味、被災地の生活なども話題になっていきました。家が流された話、親戚の方が見つからない話。同世代が語る震災体験に参加者が真剣に聞き入っている姿が印象的でした。

参加者からは「最初は緊張したけど、いろんなことを話せた」（被災地の中学生）、「みんな進路などで悩んでいるのが分かって共感した」（東京の高校生）、「自分が被災したらどうするかを考えさせられた」（大学生）、「昨秋、初めて被災地を訪れたが、復興が進んでいないので驚いた」などの声が聞かれました。「東洋大学に行って、森田先生のゼミに入りたい」という被災地の生徒もいました。



グループに分かれ、各テーマについて語り合い、同世代の仲間と交流を深めました。

東洋大学社会学部社会福祉学科助教・林大介さんも、「最初は緊張していたようですが、いろいろなことを話せていたようです。違う地域の同世代が直接出会って話し合うことはほとんどありません。同じ時代を生きる子どもたちが交流できる場は大切ですね」と同世代の交流の大切さ

## コープみらい：被災地の子どもたちとの交流会

を指摘していました。

### ●成長する世代を応援したい

グループ交流に続いて記念撮影、軽食をとりながらの懇談会が行なわれました。記念撮影の写真は、津波による被害でアルバムなど写真が手元にないという声もあることから、その場でプリントされ、コープネットグループ※<sup>2</sup>のマスコットキャラクター「ほぺたん」のクリアファイルに入れられてお土産になりました。参加者からは「写真だけでなくしちゃうけど、ファイルに入っているのうれしい」と好評でした。

乾杯の前にはじゃんけん大会。勝者には「ラーメンの形のケーキ」がプレゼントされ、歓声が上がっていました。そして、テーブルにはサンドイッチやフルーツのほかピザやファーストフード店のフライドポテトも並びました。

コープみらい東京都本部・参加とネットワーク推進室の大矢憲二担当課長は、「生協なのにファーストフード？と思われるかもしれませんが、これには理由があります」と切り出しました。

「自分が被災地ボランティアに参加したときに『地元のファーストフード店は津波で流されたり、閉鎖されてしまった。たまには食べたい』という声を聞きました。昨年も急遽用意して、好評でした。いろんな仕掛けをして喜ばれると苦勞が報われます」と笑顔を見せるとともに、「仮設住宅は『4

人家族で 2K』など勉強できる環境ではないので、子どもたちも大変です。問題は山積みですが、これからも被災地に寄り添っていきます」と決意を語ります。

今回の交流会では、コープみらいの組合員理事も多数参加しており、井上深雪理事は、「これから成長する世代を応援したいですね。生協だからできることがあると思います」と強調し、遠藤 恵理事は、「生協として交流できる場をつくる役割を果たせてよかった。これからも被災地の仲間とつながっていきたいです」と話していました。

コープみらい東京都本部の塩崎佐武郎本部長は、「若い世代が語り合うことで、いろいろな可能性が生まれます。東京からできるのは、忘れないことと、つながっていくことだと実感しています。進路の悩みもあると思いますが、これからも応援するので、元気で目標を持って生きてほしいですね」とエールを送っていました。

※<sup>1</sup> 「NPO 法人 子ども福祉研究所」が11年9月に岩手県山田町に開設。

東日本大震災で被災した中高生が集い、勉強し、軽食を食べてリラックスできる居場所となることを目的に運営されている。



「じゃんけん大会」の商品  
「ラーメンの形のケーキ」。



「第2回 被災地の子どもたちとの交流会」に参加者の集合写真。

## コープみらい：被災地の子どもたちとの交流会

※2 コープみらい、いばらきコープ、とちぎコープ、コープぐんま、コープながの、コープにいがたが加盟。